第３課　秘密から啓示へ

【暗唱聖句】

「こう祈った。「神の御名をたたえよ、世々とこしえに。知恵と力は神のもの」ダニエル2:20

【日曜日・神の内在】

「ネブカドネツァル王が即位して二年目のとき、王は何度か夢を見て不安になり、眠れなくなっ」（ダニエル2:1）てしまいます。一度だけであれば単なる夢だと思えても、何度も繰り返して同じ夢を見ると、わたしたちでも不安を感じるのではないでしょうか。そこで王は「占い師、祈祷師、まじない師、賢者を呼び出し、自分の夢を説明させようとし」（ダニエル2:2）ます。ところが、王は夢の不安さは印象として残っているのに、どんな夢を見たのかを思い出すことができないのです。これでは、さすがの賢者や占い師たちでも、王の夢を解き明かすことなどできませんでした。すると、王は激怒し、役立たずな彼らを殺せと命じます。このとばっちりが、ダニエルたちにも及んでしみます。そこでダニエルは、「しばらくの時をいただけますなら、解釈いたします」（ダニエル2:6）と願い出ます。占い師や魔術師たちに対しては、時間稼ぎをするなと怒った王でしたが、ダニエルが時間が欲しいというと、不思議とそれを許します。神様が王の心を動かしたのでしょう。そもそも、この不安な夢を見せたのは神様であり、その夢を王に忘れさせ、他の人々にも解き明かせなくさせたのは神様なのです。それは、すべてを支配しているのは、人間ではなく神であることを、捕囚としてユダから連れてきたダニエルを通して示すためでした。

【月曜日・祈り】

「ダニエルは家に帰り、仲間のハナンヤ、ミシャエル、アザルヤに事情を説明した。そして、他のバビロンの賢者と共に殺されることのないよう、天の神に憐れみを願い、その夢の秘密を求めて祈った」ダニエル2:17，18

様々な窮地に追い込まれる中で、クリスチャンが取るべきことは神様に祈るということです。偉大なる預言者たちも、みな祈って神様に救いを求めたのです。ダニエルたちの祈りは、まず神様の憐みを求め、そして具体的な問題となっている王の夢の秘密を教えて下さるようにと祈りました。常識的には不可能とも思えるような事を彼らは祈っているわけです。しかし、神様は「夜の幻によってその秘密をダニエルに明かされます」（ダニエル2:19）。すると、ダニエルはすぐに天の神をたたえて、「神の御名をたたえよ、世々とこしえに。知恵と力は神のもの。神は時を移し、季節を変え、王を退け、王を立て、知者に知恵を、識者に知識を与えられる。奥義と秘義を現し、闇にひそむものを知り、光は御もとに宿る。わたしの父祖の神よ、感謝と賛美をささげます。知恵と力をわたしに授け、今、願いをかなえ、王の望むことを知らせてくださいました」（ダニエル2:19～23）と祈ります。祈りが叶えられたとき、わたしたちもすぐに神様に感謝の祈りを捧げるものでありたいものです。

【火曜日・像（その1）】

「秘密を明かす天の神がおられ、この神が将来何事が起こるのかをネブカドネツァル王に知らせてくださったのです」ダニエル2:28

夢の内容も分からずにそれを解き明かすことは、どんな占い師や賢者たちもできないとダニエルは言います。しかし、「秘密を明かす天の神がおられ、この神が将来何事が起こるのかを」解き明かすことができると宣言します。つまり、ダニエルは自分ではなく、天の神様に王の目を引きあげさせたわけです。ただ、その夢の内容は、王にとって必ずしも心地よいものではありませんでした。だから、そのままをストレートに述べることは、危険が伴うリスクがありました。しかし、ダニエルは曖昧な言葉を使うことなく、王の見た夢の内容とその解き明かしを語ります。

「…あなたがその金の頭なのです。あなたのあとに他の国が興りますが、これはあなたに劣るもの。その次に興る第三の国は青銅で、全地を支配します…この王たちの時代に、天の神は一つの国を興されます。この国は永遠に滅びることなく、その主権は他の民の手に渡ることなく、すべての国を打ち滅ぼし、永遠に続きます。」ダニエル2:38～44

王の見た夢は、様々な金属からなら人間の姿をした像でした。頭は純金、胸と腕は銀、腹と腿が青銅、すねが鉄、足は一部が鉄、一部が陶土でできていました。そして一つの石がその像の鉄と陶土の足を打ち砕いたのでした。この夢は、これからバビロンがどうなるのか、そしてこの世界はどうなっていくのかを神様が王に見せられたのでした。王の国は純金で描かれているように本当に素晴らしい巨大な帝国ですが、やがて銀の国に滅ぼされ、その銀の国もやがて青銅の国に滅ぼされ、最後は石が飛んできて像を粉粉に打ち砕く、つまりこの世界は終わりを迎え、新しい世界が始まるのでした。ダニエルが夢の内容を解き明かしたとき、王ははっきりと自分が見た夢を思い出しました。そして、ダニエルの前になんとひれ伏して、「あなたがこの秘密を明かすことができたからには、あなたたちの神はまことに神々の神、すべての王の主、秘密を明かす方にちがいない」（ダニエル2:47）と、神様を認めたのでした。

【水曜日・像（その2）】

王の見た夢は、これからヨーロッパを中心とした世界がどうなっていくのかを預言したものでした。

1. 純金の頭…バビロン（紀元前626～539年）。バビロンの力と富の象徴。豊富な金が町を飾り立てていた。
2. 銀の胸と腕…メディアとペルシャの連合国（紀元前539～331年）金よりは劣る国。税制の中で銀を用いた。
3. 青銅の腹と腿…ギリシャ（紀元前331～168年）青銅の武具で有名。
4. 鉄のすね…ローマ（紀元前168～西暦476年）鉄はローマ帝国の破壊的な力を象徴。
5. 一部が鉄、一部が粘土の足…分裂したヨーロッパ（西暦476年～キリスト再臨）ローマ帝国が滅んだ後、ヨーロッパは二度と統一されることはない。ナポレオンもヒットラーもできなかった。戦略結婚が行われたり、ＥＵ経済統一をしたとしても、かつての帝国のようにはならない。

【木曜日・石】

「この王たちの時代に、天の神は一つの国を興されます。この国は永遠に滅びることなく、その主権は他の民の手に渡ることなく、すべての国を打ち滅ぼし、永遠に続きます」ダニエル2:44

おそらく王が像の夢を見て不安を思ったのは、最後に石が飛んできて粉々に打ち砕かれたからでしょう。その石は「人手によらずに切り出され、その像の鉄と陶土の足を打ち砕きま」（ダニエル2:34）す。つまり、人間の力ではなく神様の力によって、今のこの時代にぶつかって、人間が築き上げてきたすべての歴史を清算し、新しい国を興すときが来きます。そして、その国は永遠の続くのです。人手によらずに切り出され石はキリストの再臨を象徴しています。また「その像を打った石は大きな山となり、全地に広がった」（ダニエル2:35）とあります。この山はかつて神殿が立っていたシオンの山を連想させますが、石そのものも山から切り出されたものです。その山は天のシオン、天の聖所を指し示し、そこから来られるキリストが、新しい永遠の王国を樹立するわけです。これが神様が王に見せられたことでした。そして、この夢が真実であることは、歴史が物語っています。王の見た夢の中でまだ起こっていないことは、ただ一つ、最後の石が飛んできてこの世界を打ち砕き、新しい王国を樹立する、その瞬間のみです。